

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	2020年4月10日
【四半期会計期間】	第179期第3四半期(自 2019年12月1日 至 2020年2月29日)
【会社名】	株式会社 岡山製紙
【英訳名】	Okayama Paper Industries Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 津川 孝太郎
【本店の所在の場所】	岡山市南区浜野1丁目4番34号
【電話番号】	086-262-1101
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 妻鹿 徹
【最寄りの連絡場所】	岡山市南区浜野1丁目4番34号
【電話番号】	086-262-1101
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 妻鹿 徹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次		第178期 第3四半期 累計期間	第179期 第3四半期 累計期間	第178期
会計期間		自 2018年 6月1日 至 2019年 2月28日	自 2019年 6月1日 至 2020年 2月29日	自 2018年 6月1日 至 2019年 5月31日
売上高	(千円)	7,507,427	7,425,753	10,030,609
経常利益	(千円)	598,068	1,074,184	804,728
四半期(当期)純利益	(千円)	394,818	741,393	533,191
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	-	-	-
資本金	(千円)	821,070	821,070	821,070
発行済株式総数	(株)	5,500,000	5,500,000	5,500,000
純資産額	(千円)	8,418,533	8,909,448	8,309,216
総資産額	(千円)	12,714,139	13,004,506	12,776,375
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	79.89	149.52	107.86
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
1株当たり配当額	(円)	6.00	7.00	13.00
自己資本比率	(%)	66.2	68.5	65.0

回次		第178期 第3四半期 会計期間	第179期 第3四半期 会計期間
会計期間		自 2018年 12月1日 至 2019年 2月28日	自 2019年 12月1日 至 2020年 2月29日
1株当たり四半期純利益	(円)	0.08	42.89

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため、記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間および本四半期報告書提出日(2020年4月10日)現在において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」につき、以下の追加すべき事項が生じております。

なお、文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日(2020年4月10日)現在において当社が判断したものであります。

#### (4)感染症による影響

2019年12月から続く新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、中国及び日本を含む世界各国で経済活動に多大な影響が発生しています。これに伴い、顧客からの受注、当社唯一の生産拠点である本社工場の操業等に支障が出た場合は、当社の経営成績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1)財政状態及び経営成績の状況

##### a.財政状態

当第3四半期会計期間末の総資産は13,004百万円となり、前事業年度末に比べ228百万円増加しました。内訳は、流動資産が351百万円の増加、固定資産が123百万円の減少であります。

流動資産増加の主な要因は、現金及び預金が売上債権の回収などにより259百万円増加したこと及び受取手形及び売掛金が当第3四半期会計期間末日が金融機関の休日であった影響などにより202百万円増加したことあります。また、固定資産減少の主な要因は、保有銘柄の株価下落により投資有価証券が118百万円減少したことあります。

負債は4,095百万円となり、前事業年度末に比べ372百万円減少しました。内訳は、流動負債が320百万円の減少、固定負債が51百万円の減少であります。

流動負債減少の主な要因は、原料古紙仕入の減少による支払手形及び買掛金296百万円の減少であります。また、固定負債減少の主な要因は、投資有価証券減少に伴う繰延税金負債67百万円の減少及び退職給付引当金24百万円の増加であります。

純資産は8,909百万円となり、前事業年度末に比べ600百万円増加しました。主な要因は、利益剰余金671百万円の増加及びその他有価証券評価差額金85百万円の減少であります。

以上の結果、自己資本比率は前事業年度末の65.0%から68.5%となりました。

##### b.経営成績の状況

当第3四半期累計期間における経営成績については、国内経済の減速に伴い、1%前後の成長を続けてきた段ボール生産面積が2019年は前年比でマイナスとなり、当社の主要製品である段ボール原紙(中芯原紙)の販売数量は減少しました。美粧段ボール事業における売上の減少もあり、前年同四半期と比べ若干の減収となりました。

利益面では、板紙製品価格の改定が浸透して販売数量の減少に比して減収が小幅に抑えられたこと及び原料古紙価格、主な燃料であるLNGの価格ともに安定していることから、前年同四半期と比べ増益となりました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は7,425百万円(前年同四半期比1.1%減)、営業利益は1,023百万円(前年同四半期比84.1%増)、経常利益は1,074百万円(前年同四半期比79.6%増)、四半期純利益は741百万円(前年同四半期比87.8%増)となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

##### 板紙事業

当事業関連では、製品価格改定が浸透しましたが、販売数量が前年同四半期比3.8%減少したため、売上高は6,531百万円(前年同四半期比0.6%減)、セグメント利益は1,052百万円(前年同四半期比84.4%増)となりました。

##### 美粧段ボール事業

当事業関連では、主力の通信機器関連品が低調で、売上高は894百万円(前年同四半期比4.6%減)、セグメント損失は28百万円(前年同四半期はセグメント損失14百万円)となりました。

#### (2)経営方針・経営戦略等

当第3四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

#### (3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

当第3四半期累計期間における研究開発活動の金額は、20百万円であります。

なお、当第3四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	22,000,000
計	22,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2020年2月29日)	提出日現在発行数(株) (2020年4月10日)	上場金融商品取引所名又は登 録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	5,500,000	5,500,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	5,500,000	5,500,000	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式 総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2019年12月1日～ 2020年2月29日	-	5,500,000	-	821,070	-	734,950

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年11月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2020年2月29日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 532,200	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,963,300	49,633	同上
単元未満株式	普通株式 4,500	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,500,000	-	-
総株主の議決権	-	49,633	-

【自己株式等】

2020年2月29日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社岡山製紙	岡山市南区浜野1丁目4番34号	532,200	-	532,200	9.67
計	-	532,200	-	532,200	9.67

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(2019年12月1日から2020年2月29日まで)及び第3四半期累計期間(2019年6月1日から2020年2月29日まで)に係る四半期財務諸表についてPwC京都監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年5月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,606,961	3,866,219
受取手形及び売掛金	3,955,253	4,157,451
商品及び製品	402,560	336,654
仕掛品	16,052	22,374
原材料及び貯蔵品	538,433	483,527
その他	21,192	25,957
貸倒引当金	2,000	2,000
流動資産合計	8,538,453	8,890,186
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	429,213	398,113
構築物（純額）	96,590	91,634
機械及び装置（純額）	973,266	881,004
車両運搬具（純額）	0	0
工具、器具及び備品（純額）	18,768	27,460
土地	194,549	194,549
リース資産（純額）	38,231	28,731
建設仮勘定	2,300	127,794
有形固定資産合計	1,752,919	1,749,287
無形固定資産		
9,691		7,968
投資その他の資産		
投資有価証券	2,463,062	2,344,906
出資金	9,793	9,793
その他	2,455	2,365
投資その他の資産合計	2,475,310	2,357,064
固定資産合計	4,237,922	4,114,320
資産合計	12,776,375	13,004,506
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,193,220	1,896,789
未払金	426,675	271,786
未払費用	731,488	786,995
未払法人税等	254,667	227,993
その他	122,961	224,744
流動負債合計	3,729,013	3,408,310
固定負債		
繰延税金負債	242,591	174,841
退職給付引当金	417,768	442,340
その他	77,786	69,566
固定負債合計	738,146	686,748
負債合計	4,467,159	4,095,058



(単位：千円)

	前事業年度 (2019年5月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年2月29日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	821,070	821,070
資本剰余金	744,487	751,030
利益剰余金	5,463,337	6,135,313
自己株式	207,786	200,770
株主資本合計	6,821,108	7,506,643
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,488,107	1,402,805
評価・換算差額等合計	1,488,107	1,402,805
純資産合計	8,309,216	8,909,448
負債純資産合計	12,776,375	13,004,506

(2)【四半期損益計算書】  
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
売上高	7,507,427	7,425,753
売上原価	5,905,189	5,316,310
売上総利益	1,602,238	2,109,443
販売費及び一般管理費	1,046,346	1,086,279
営業利益	555,891	1,023,163
営業外収益		
受取配当金	41,110	46,335
その他	3,033	8,249
営業外収益合計	44,144	54,584
営業外費用		
売上割引	1,963	2,311
固定資産処分損	-	1,250
その他	3	2
営業外費用合計	1,967	3,564
経常利益	598,068	1,074,184
特別損失		
固定資産除却損	20,753	-
特別損失合計	20,753	-
税引前四半期純利益	577,315	1,074,184
法人税、住民税及び事業税	166,518	363,176
法人税等調整額	15,979	30,385
法人税等合計	182,497	332,790
四半期純利益	394,818	741,393

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が四半期会計期間末日残高に含まれております。

	前事業年度 (2019年5月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年2月29日)
受取手形	- 千円	213,815千円
支払手形	-	143,470
流動負債の「その他」 (設備支払手形)	-	33,696

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
減価償却費	201,594千円	206,326千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年8月28日 定時株主総会	普通株式	29,607	6	2018年5月31日	2018年8月29日	利益剰余金
2019年1月10日 取締役会	普通株式	29,694	6	2018年11月30日	2019年2月4日	利益剰余金

当第3四半期累計期間(自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年8月27日 定時株主総会	普通株式	34,643	7	2019年5月31日	2019年8月28日	利益剰余金
2020年1月10日 取締役会	普通株式	34,774	7	2019年11月30日	2020年2月4日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期損益 計算書計上 額(注)
	板紙事業	美粧段 ボール事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	6,569,590	937,836	7,507,427	7,507,427	-	7,507,427
セグメント間の内部 売上高又は振替高	88,891	20,556	109,447	109,447	109,447	-
計	6,658,482	958,393	7,616,875	7,616,875	109,447	7,507,427
セグメント利益又は損 失( )	570,642	14,750	555,891	555,891	-	555,891

(注)セグメント利益又は損失( )は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期損益 計算書計上 額(注)
	板紙事業	美粧段 ボール事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	6,531,422	894,330	7,425,753	7,425,753	-	7,425,753
セグメント間の内部 売上高又は振替高	99,695	21,866	121,561	121,561	121,561	-
計	6,631,117	916,197	7,547,315	7,547,315	121,561	7,425,753
セグメント利益又は損 失( )	1,052,018	28,855	1,023,163	1,023,163	-	1,023,163

(注)セグメント利益又は損失( )は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 2018年6月1日 至 2019年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年6月1日 至 2020年2月29日)
1株当たり四半期純利益 (算定上の基礎)	79円89銭	149円52銭
四半期純利益(千円)	394,818	741,393
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益(千円)	394,818	741,393
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,941	4,958

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

2020年1月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ)中間配当による配当金の総額・・・・・・・・・・34,774千円

(ロ)1株当たりの金額・・・・・・・・・・7円00銭

(ハ)支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・2020年2月4日

(注)2019年11月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いました。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年4月9日

株式会社岡山製紙

取締役会 御中

P w C 京都監査法人

指 定 社 員  
業 務 執 行 社 員 公認会計士 高 田 佳 和

指 定 社 員  
業 務 執 行 社 員 公認会計士 江 口 亮

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社岡山製紙の2019年6月1日から2020年5月31日までの第179期事業年度の第3四半期会計期間(2019年12月1日から2020年2月29日まで)及び第3四半期累計期間(2019年6月1日から2020年2月29日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社岡山製紙の2020年2月29日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の2019年5月31日をもって終了した前事業年度の第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間に係る四半期財務諸表並びに前事業年度の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期財務諸表に対して2019年4月8日付で無限定の結論を表明しており、また、当該財務諸表に対して2019年8月27日付で無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。